

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年9月26日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4571700543		
法人名	社会福祉法人豊の里		
事業所名	グループホーム2ユニットさつき		
所在地	宮崎県北諸県郡三股町樺山4845番地8 (電話) 0986-51-3993		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成20年8月21日	評価確定日	平成20年9月26日

## 【情報提供票より】(平成20年7月29日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成14年10月1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	15人	常勤11人, 非常勤4人, 常勤換算6.6人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1階建ての	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,500円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(100,000円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200円	昼食 350円
	夕食	386円	おやつ 100円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要(平成20年7月29日現在)

利用者人数	18名	男性 3名	女性 15名
要介護1	5	要介護2	3
要介護3	7	要介護4	3
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 86歳	最低 82歳	最高 100歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	豊栄クリニック
---------	---------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

年2回の家族アンケートを実施している。気軽に意見を言ってもらえる雰囲気づくりに留意していると同時に、不適合対応シートを作成し、意見や苦情等を前向きに受け止め生かしていくホームの姿勢がある。法人内・外の研修計画が具体的に立てられ、多くの職員が受講できる体制づくりが行われている。研修に参加した職員は復命書の提出と同時に、全体会議で発表する機会が設けられる等、研修内容の共有化が図られている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	改善計画シートを活用し、全職員で情報を共有している。改善に向けた取り組みが計画的に行われている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	サービス評価の意義を全職員が理解しており、再度考え直す機会との意識を持ち、外部評価の結果を踏まえ改善に向けて積極的に取り組まれている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	家族や民生・児童委員の方々が参加し、2か月に1度の話し合いが行われている。これまでの評価結果を踏まえた内容から、現在の取り組みに至るまで、幅広い協議が行われ利用者本位のケアへ結びつく取り組みがなされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月、職員が手書きのホーム便りを作成し、利用者のホームでの生活状況を家族へ伝えている。また、来訪時には便り上で伝えきれなかった事も含め、詳細な様子説明が行われている。遠方の家族へは電話できめ細かく様子を知らせている。来訪時に、家族より意見、苦情を拝聴したり、家族アンケートを用いる等、利用者主体の運営がなされている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の夏祭りや地元の敬老会にも積極的に参加し、利用者と地元の人々が交流できる機会を持てるように努めている。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を理解し、地域の住み慣れた環境の中で生き生きとした生活が送れるよう、職員皆で協議した理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、日常のケアの中で理念に触れ、全職員が理念を具体化していく事を意識した取り組みを行っている。また、職員全体で話し合う時間を定期的に設け、具体的なケアの実践に向け日々取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏祭りや地元の敬老会にも積極的に参加し、利用者と地元の人々が交流できる機会を持てるように努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義を全職員が理解しており、再度考え直す機会との意識を持ち、外部評価の結果を踏まえ改善に向けて積極的に取り組まれている。		

宮崎県三股町 グループホーム2ユニットさつき

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や民生・児童委員の方々が参加し、2か月に1度の話し合いが行われている。これまでの評価結果を踏まえた内容から、現在の取り組みに至るまで、幅広い協議が行われ利用者本位のケアへ結びつく取り組みがなされている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町役場担当窓口に対して、事業所の実情やケアサービスの取り組みが積極的に伝えられ交流が図られている状況とは言えない。	○	現場で起こり得る問題や利用者の問題解決のために、ホームの考え方や実態を町役場担当者によく知ってもらい情報が共有されることを期待したい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、手書きのホーム便りにて現在の状況報告を含め日々の様子が家族へ伝えられている。また、来訪時には便り上で伝えきれなかったことも含め、詳細な様子説明が行われている。遠方の家族へは電話できめ細かく様子を知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族アンケートを実施している。気軽に意見を言ってもらえる雰囲気づくりに留意していると同時に、不適合対応シートを作成し意見や苦情等を前向きに受け止め生かしていくホームの姿勢がある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の定期的な異動により、利用者にとってなじみの職員が継続的に支える体制になっているとは言い難い環境がある。	○	職員が異動する場合、利用者個々に対しての影響を考慮し、交替前後の利用者への説明や対応の仕方、家族等への配慮も含めた検討が十分になされることを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内・外の研修計画が具体的に立てられ、多くの職員が受講できる体制づくりが行われている。研修に参加した職員は復命書の提出と同時に、全体会議で発表する機会が設けられる等、研修内容の共有化が図られている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他法人との交流が少ない。ホームがある三股町内に連絡協議会を設け交流する機会をつくりサービスの質の向上を図ろうとの動きはあるものの、実施には至っていない。	○	他法人の同業者との交流を深め、相互研修での事例検討や他ホームへの見学を通し、事業所外の職員の意見や経験を日々のサービス向上に生かされることを期待したい。
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にホームの雰囲気になじんでいただくために見学に来ていただいたり、利用者の自宅に向く等、ホームでの生活へ徐々になじめるよう配慮しながら受け入れをしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	小さなことに気づく利用者に教えられることが多いと言われる程、支援する側・される側という意識を持たず、お互いが協働しながら和やかな生活が送れるように場面づくりや利用者の視点で声かけを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者に関わる職員皆が、五感を使って感じることを大切にし、本人にとってどのように暮らすことが最良なのかをアセスメントツール（センター方式）を活用し把握に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本位の介護計画となるように、アセスメントを含め本人、家族、担当職員等の意見を大切にした意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。また、同法人グループの高齢者加齢研究所との連携を密にし、さまざまな認知症ケアの実践を取り入れている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	管理者及び担当職員が中心となった情報確認を随時行い、家族や入居者本人の要望を取り入れ3か月に一度の定期見直しと状況に応じた随時見直しが行われている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームの多機能性を生かし、利用者が住みなれた地域で安心して暮らしていけるよう、地域の夏祭りや敬老会に参加する等柔軟な姿勢がある。医療面も以前から通っていた病院が受診できる等の柔軟な受診支援体制がある。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者本人及び家族の意向を大切にし、複数の医療機関との関係づくりが積極的に行われ、希望時の受診支援体制がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期を迎える上でホームとしての方針を定め、早い段階から家族、関係医療機関の医師、看護師を交えての話し合いが繰り返し行われ、全員が方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者を傷つけてしまわないように、さりげない温かな声かけや対応に配慮されている。年2回の家族アンケートを実施し、プライバシーに関することや個人情報に関することを含め、前向きに取り組む姿勢がある。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりが持っている生活リズムを大切にするとともに、何を望んでいるか日々確認しながら、希望に沿った生活が送れるようにさりげない支援が行われている。		

宮崎県三股町 グループホーム2ユニットさつき

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な調理から片づけに至るまで、利用者の残存能力に応じた支援（力を引き出す）が行われている。職員は介助する一方にならず、利用者と同じ食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の意向を第一に、言葉掛けや対応の工夫を行いながら、毎日の入浴（ホーム方針）支援が行われている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が得意としている事、不得意としている事を日々の暮らしの中で把握するとともに、これまでの経験や知恵が発揮できる場面を作っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の五感に働きかける取り組みとして、毎日の散歩を中心に、これまで通っていた美容室へ出向いたり、近くの商店に買い物へ行く等の機会が多く作られている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	一人の利用者が外に出たがるとの理由で、玄関に一番近い出入り口に鍵が掛っていた。鍵を掛ける事が常態化されていた。	○	利用者個々にもたらす心理的不安や閉塞感、家族や地域の人々にもたらす印象等のデメリットを、運営者を含む全職員で認識し、日中鍵をかけないで済む取り組みがなされることを期待したい。

宮崎県三股町 グループホーム2ユニットさつき

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の総合防災訓練が実施され、地域住民（公民館長、民生・児童委員等）への参加の働きかけも積極的に行われ、協力体制が整っている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの栄養バランス、摂取量や水分摂取量が一日を通じて確保がされ、記録として残されている。また、体調や運動量に応じて介助の方法を変える等、職員全員が常に意識した支援が行われている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間はとても明るく、不快な匂いや音、明るすぎたり暗すぎたりと気になる点もない。フロアの飾りつけや家具の配置は自然体で生活感や季節感があふれている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全ての居室が畳部屋である。畳の上で暮らしてきた利用者にとっては落ち着く空間となっている。ベッドを含め今まで使いなじんだ家具類が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるしつらえがある。		

※  は、重点項目。